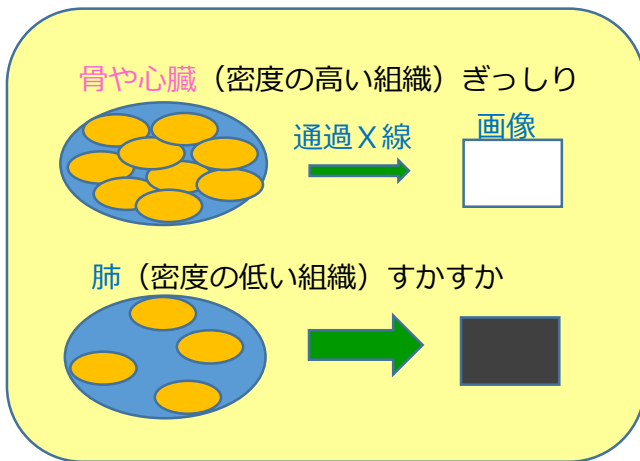
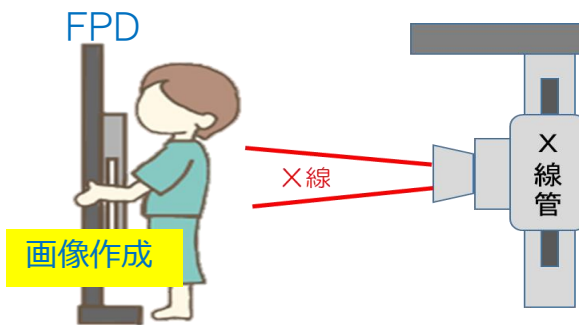


胸部X線撮影検査の仕組み

どのように画像が作られるのでしょうか？

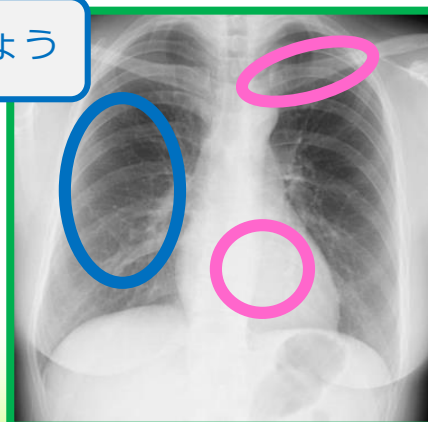
X線検査は、物質を通り抜けるX線の性質を利用しています。
 X線は体の中にはいると、臓器とぶつかったり、吸収されたりします。
骨や心臓のように細胞が**ぎっしりつまった臓器**では通り抜けにくく
肺のように細胞が**すかさすかの臓器**では通り抜けやすくなります。
 通過したX線には臓器の情報が含まれ、FPD（フラットパネルディテクタ）で
 受け取り、デジタル処理をして白から黒の色調でX線画像が作られます。

※ X線は体の中に残ることがありませんので、ご安心ください。



- 肺
- ↓
- 脂肪
- ↓
- 心臓・筋肉
- ↓
- 骨・石灰化

実際の画像を見てみましょう



空気がたくさんある**肺**は
 通過するX線量が多く
 画像は黒く写ります

心臓や骨は
 通過するX線量は少なく
 画像は白く写ります